

# 大竹市工業用水道事業経営戦略【概要版】

## 1 策定の目的

将来にわたり安定的に工業用水道事業を継続するためには、自らの経営等についての確な現状把握を行った上で、中長期的な視野に基づく計画的な経営に取り組み、効率化・経営健全化を行うことが必要です。そのため、「大竹市工業用水道事業経営戦略」（以下、「経営戦略」と言う。）を策定しました。本計画は計画期間を令和3年度から令和30年度までとします。

## 2 工業用水道事業の概要

本市の工業用水道事業は、昭和29年から工業用水道事業（以下、旧1期工水）として企業への供給が開始され、これに加え、平成17年3月からは第2期工業用水道事業（以下、旧2期工水）による企業への供給を開始しましたが、平成23年4月1日より2つの工業用水道事業を統合し、水の相互融通による安定供給の確保と施設の有効利用を図っています。

表1 供給先事業者及び契約水量

| 項目           | 内容                       | 水量                       |
|--------------|--------------------------|--------------------------|
| 給水先事業者及び契約水量 | 日本製紙（株）大竹工場              | 14,400 m <sup>3</sup> /日 |
|              | 日本製紙（株）大竹北工場             | 12,000 m <sup>3</sup> /日 |
|              | （株）ダイセル                  | 28,000 m <sup>3</sup> /日 |
|              | 中国塗料（株）                  | 3,200 m <sup>3</sup> /日  |
|              | 大竹明新化学（株）                |                          |
|              | 戸田工業（株）                  | 4,000 m <sup>3</sup> /日  |
|              | 大竹市環境整備課                 | 1,000 m <sup>3</sup> /日  |
| 7箇所          | 62,600 m <sup>3</sup> /日 |                          |
| 配水能力         | 79,400 m <sup>3</sup> /日 |                          |
| 未契約水量        | 16,800 m <sup>3</sup> /日 |                          |

大竹市工業用水道事業の給水状況は、7事業者へ供給を行っており、配水能力79,400m<sup>3</sup>/日に対し契約水量の合計が62,600m<sup>3</sup>/日であり、未契約水量が16,800m<sup>3</sup>/日となっています。

## 3 将来の事業環境

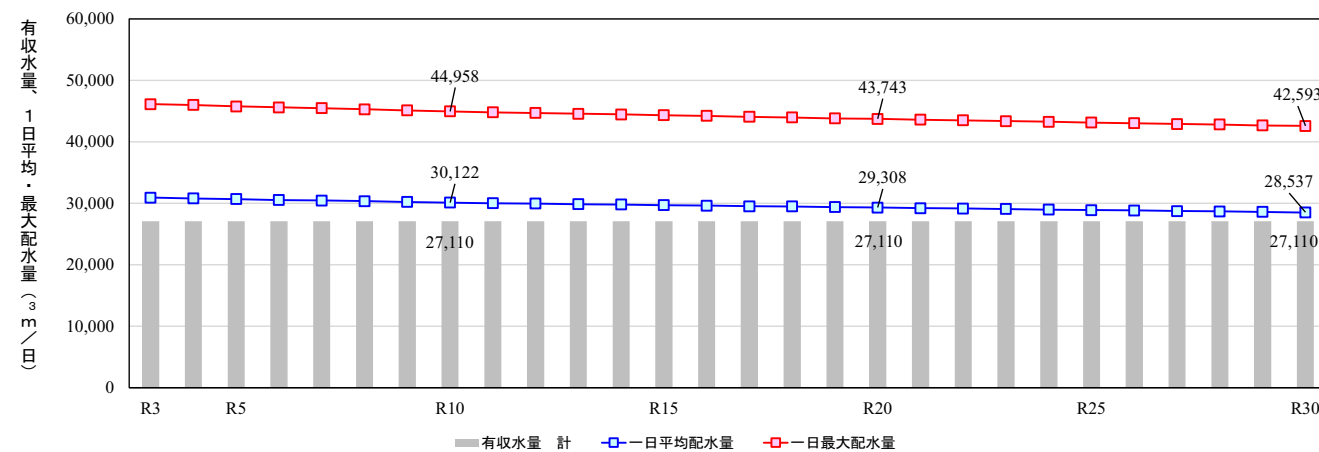


図1 有収水量，1日平均・最大配水量の見通し

契約水量は、当面、増減予定がなく、近年の水使用に大きな変化がないため、有収水量は現状と同程度の水量を見込んでいます。（有収水量は過去10年以内の平均水量を見込んでいます。）

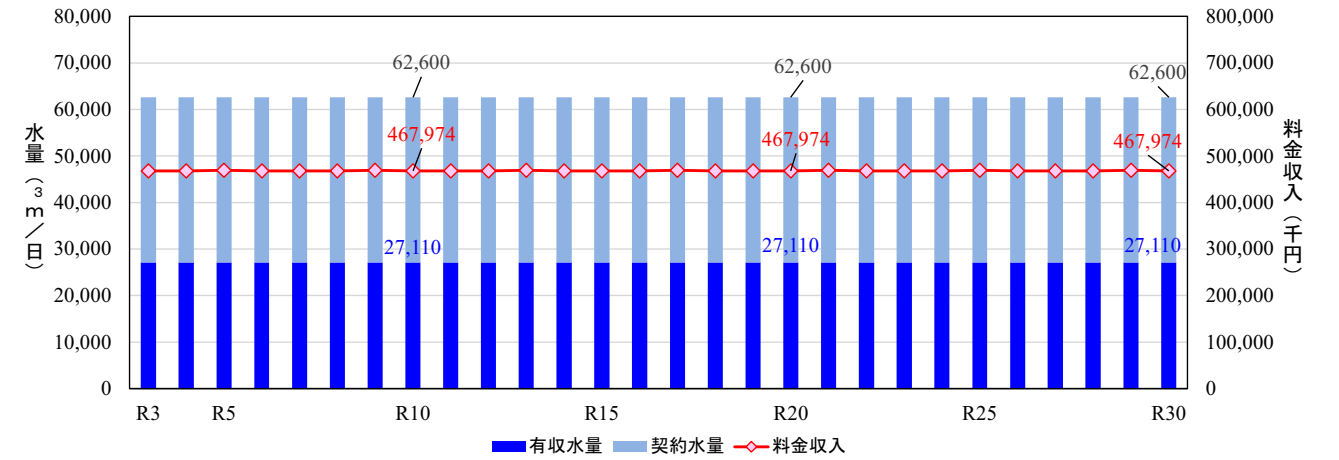


図2 契約水量，有収水量及び料金収入の見通し

有収水量を現状と同程度見込んでいることから、料金収入も現状と同程度を見込んでいます。

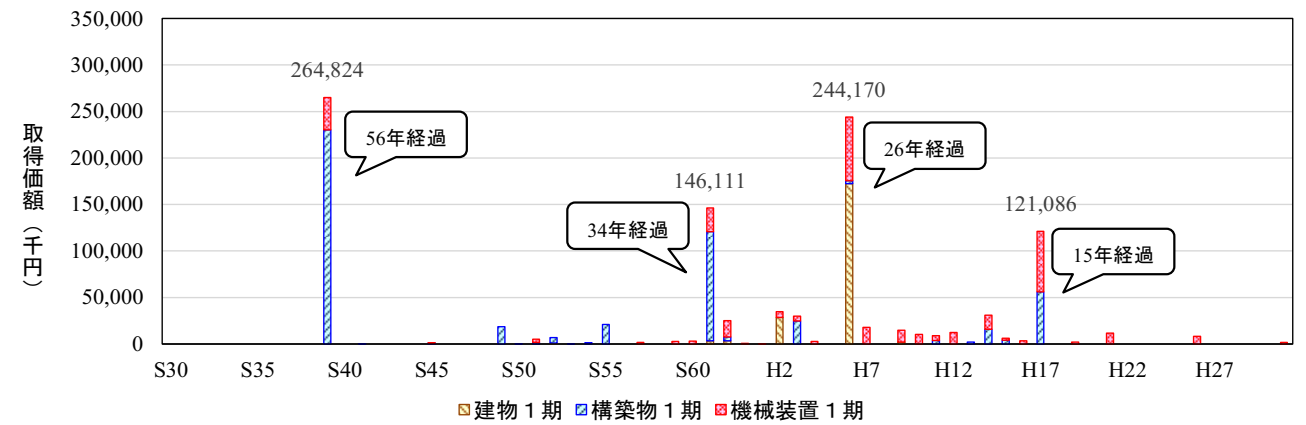


図3 旧1期工水の年度別取得価額

旧1期工水は昭和39年度に取得した資産が最も多く、取得から56年経過しており老朽化が進んでいる状況にあります。

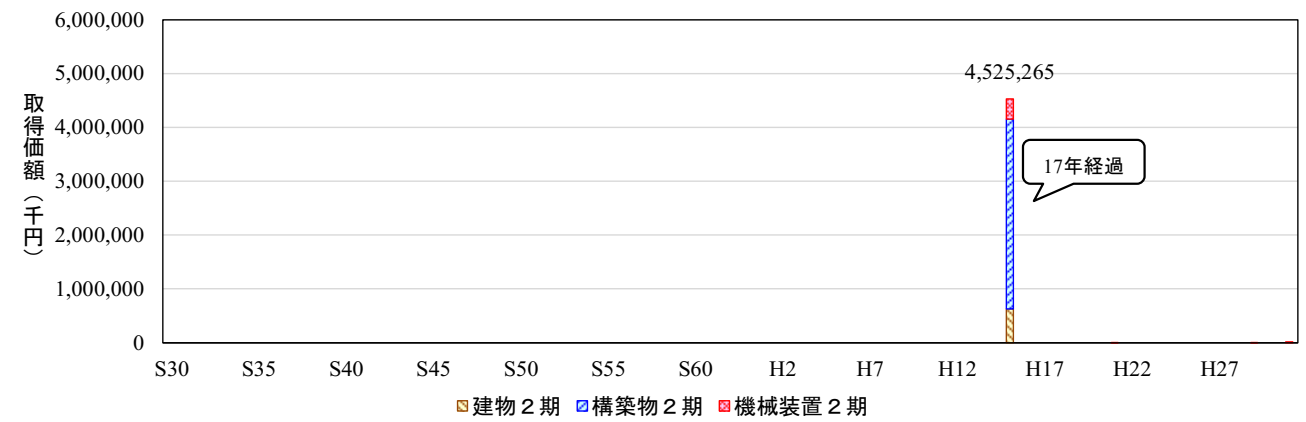


図4 旧2期工水の年度別取得価額

旧2期工水は平成15年度に取得した資産が多く、取得から17年経過していますが、耐用年数の短い機械電気計装設備については、更新の必要に迫られています。

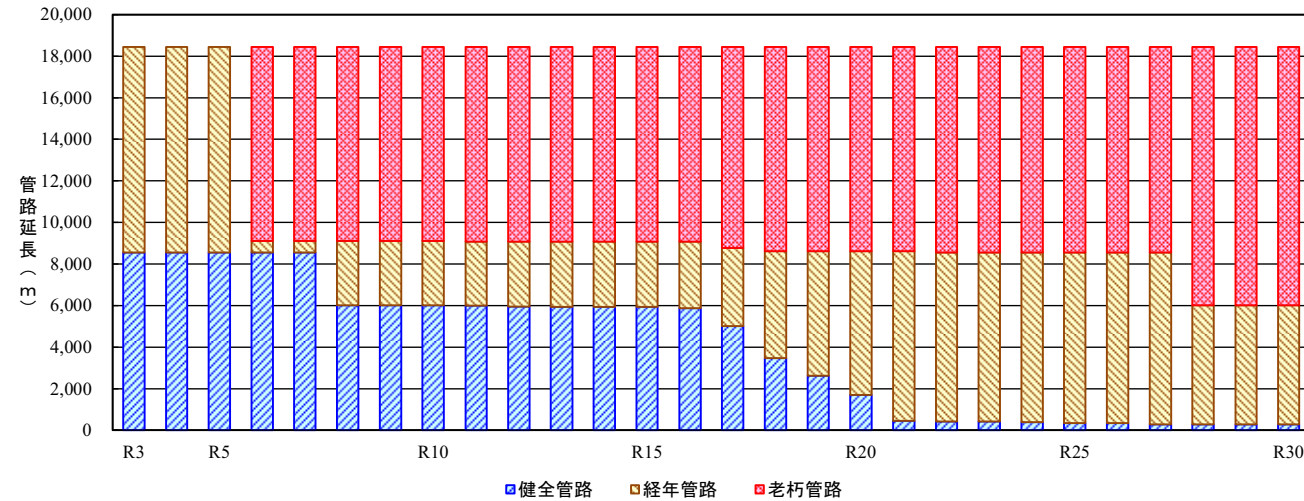


図5 管路の健全度の見通し

管路の法定耐用年数は40年となりますが、令和元年度時点で布設後40年を経過した管路が53%存在しています。今後老朽管路が増加する見込みであるため、計画的に老朽管の更新を実施する必要があります。(健全管路40年以内、経年管路41～60年、老朽管路60年以上)

※ 管路は取得資産の構築物に含まれています。

## 4 投資・財政計画

**投資計画** 平成30年度に策定した、大竹市工業用水道事業改築更新計画に基づき、限られた財源の中で計画的に投資を行うことを目標としています。改築更新計画は、主に老朽化施設の更新(耐震化を含む)を目的としています。

表2 投資計画

| 事業名           | 税抜        |             |             |             |           |           |
|---------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
|               | R3～R7     | R8～R12      | R13～R17     | R18～R22     | R23～R27   | R28～R30   |
| 防鹿水源機電設備更新事業  | 12,650千円  | 253,000千円   |             |             |           |           |
| 連絡管整備事業       |           | 48,920千円    | 489,200千円   |             |           |           |
| 耐震補強・劣化補修事業   | 7,700千円   |             |             |             |           |           |
| 土木施設更新事業      |           |             | 161,730千円   | 431,280千円   |           |           |
| 機械電気設備更新事業    | 190,726千円 | 367,542千円   | 18,552千円    |             |           |           |
| 老朽管布設替事業      |           | 300,000千円   | 750,000千円   | 750,000千円   | 750,000千円 | 450,000千円 |
| 防鹿水源地機械設備更新事業 | 13,550千円  | 271,000千円   |             |             |           |           |
| 計             | 224,626千円 | 1,240,462千円 | 1,419,482千円 | 1,181,280千円 | 750,000千円 | 450,000千円 |

**財源** 財源としては、企業債を活用しますが、企業債への依存度を低減することを目標とします。企業債の充当率については、従前より100%としていましたが、将来的な償還元金返済の負担の低減を行う必要もあるため、企業債の充当率が経営に及ぼす影響を考慮し、令和9年度以降企業債の充当率を50%とします。

投資計画による、今後の財政見通しは以下のとおりです。

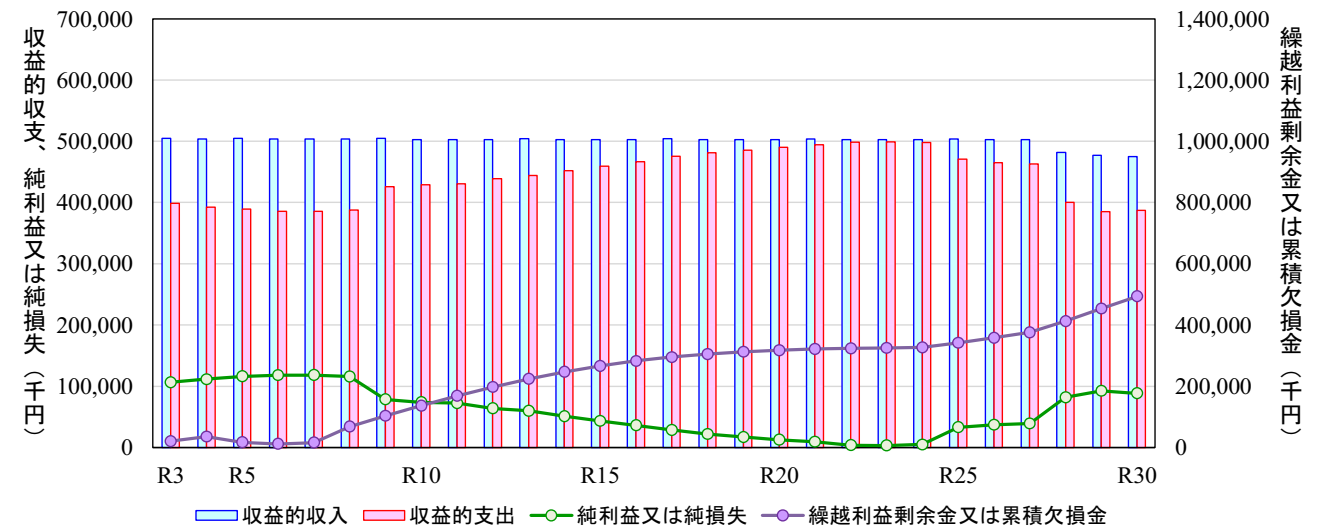


図6 収益的収支の見通し

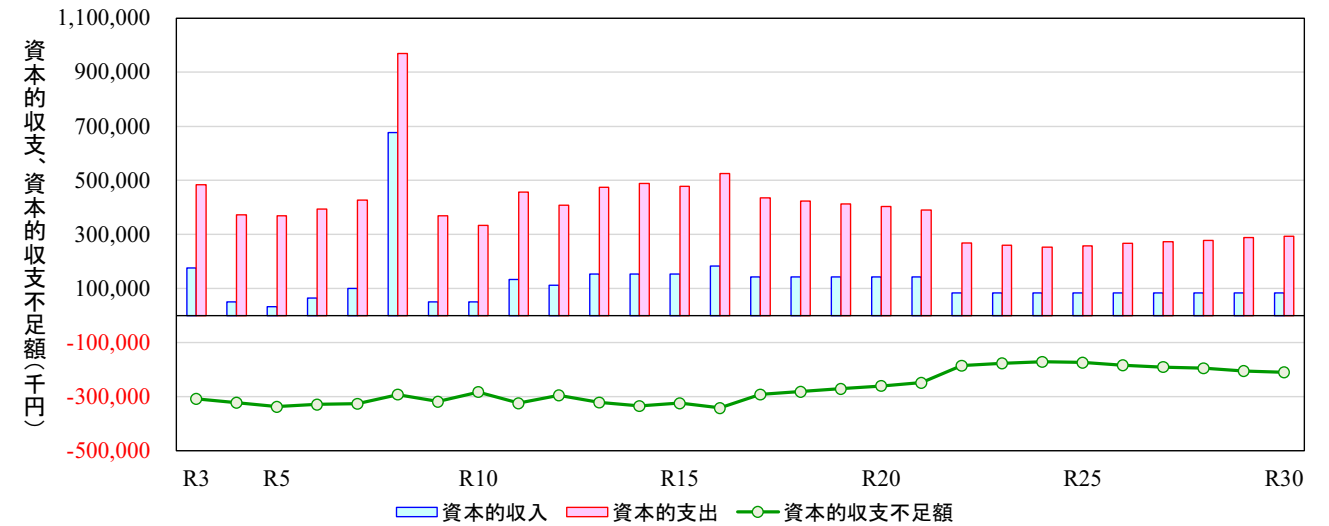


図7 資本的収支の見通し

## 5 経営戦略の事後検証等

「経営戦略」は、将来にわたって「安心・安全なサービスの持続的な提供」を実現するため、PDCAサイクルを活用し、実効性を確保していきます。

### (1) 進捗管理(モニタリング)

毎年度、経営戦略の目標達成状況を評価するとともに、進捗管理をとおして、実態に合わせた改善策を検討していく体制を整えます。

### (2) 見直し(ローリング)

5年間隔で、経営戦略を見直して改定を行います。見直しに当たっては、計画と実績との乖離及びその原因を分析するとともに、更新・維持管理のための投資計画の見直しも行います。